

[平成15年度普及に移す技術]

[普及に移す技術名] 卵巣を除去した黒毛和種雌牛の肥育について

[要約] 黒毛和種雌牛の卵巣を除去し肥育することで、通常と比べ牛同士の闘争や発情行動を抑えることができ、飼養管理の改善が認められた。また増体量や枝肉等級で、良い傾向があった。

[キーワード] 肥育 卵巣除去 発情行動 飼養管理 増体 枝肉等級

[担当] 福井県畜産試験場・大家畜研究グループ

[連絡先] 0776-81-3130

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

肉牛の肥育では、雄は去勢を行うのに対し、雌では無処置である。そのため、発情を原因とした、飼料摂取量の低下や乗合い闘争によるストレス・事故の危険性などの問題がある。

そこで、若齢期に卵巣除去器具で卵巣を除去し、発情を抑えることで、群飼管理および枝肉成績などの影響について検討した。

[技術の内容・特徴]

- 1 牛間での攻撃や闘争行動、乗合いや鳴き声などの発情行動を抑えることができ、気性が穏やかとなる事で、飼養管理が改善された。
- 2 飼料効率や増体も高い傾向にあった。
- 3 枝肉等級で皮下脂肪の厚さ・肉のきめ、締まりも良い傾向にあった。

[技術の活用面・留意点]

・活用面

- 1 雌牛肥育を行う農家での飼養管理の改善に活用できる。
- 2 飼料効率や枝肉等級の向上が図れたことから、経営改善も期待できる。

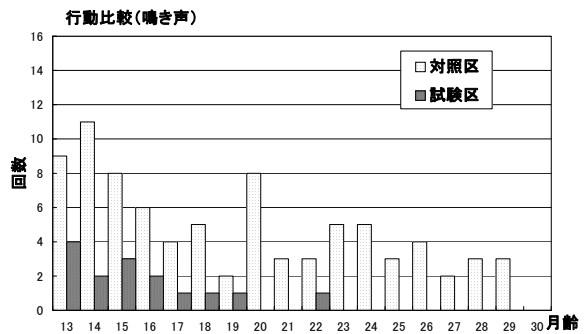
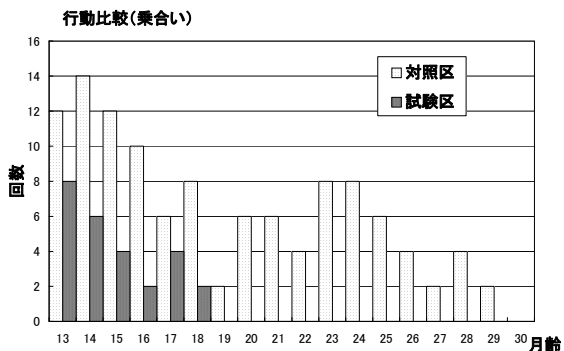
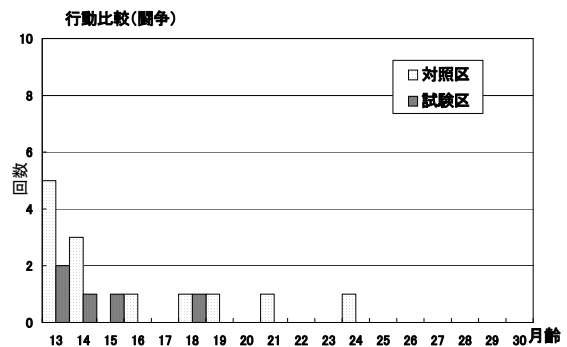
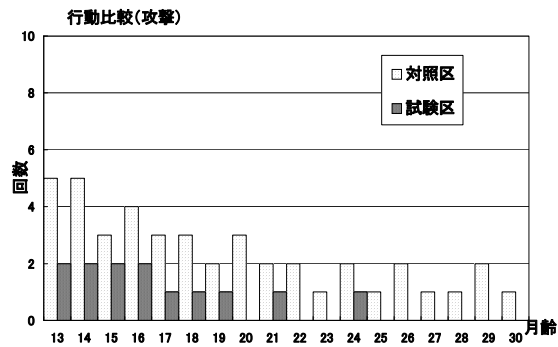
・留意点

- 1 卵巣除去器具の使用にあたっては、腹膜炎等の事故の危険性があるため、十分な臨床経験を有する者が行う必要がある。
- 2 卵巣の除去時期は、月齢6～13ヶ月、体重200～350Kgが目安である。

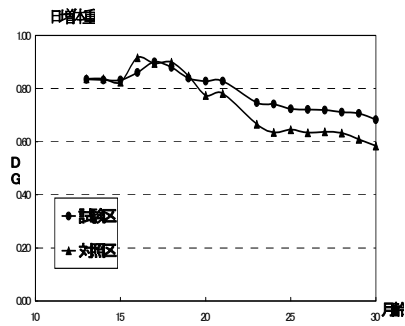
[具体的なデータ]

1 飼養管理改善効果

試験区—卵巢摘出区
対照区—卵巢無摘出区



2 飼料効率・増体改善効果



	試験区	対照区
粗飼料	757	755
濃厚飼料	3,458	3,261
総TDN	2,920	2,779
総CP	552	531
期間増体	407	358
TDN/Kg	7.2	7.8

	対照区	試験区
技術料	0	5,000
飼料費	187,300	196,100
枝肉価格	415,106	463,564
利益	227,806	262,464
利益差	試験区+34,658(円)	

枝肉格付成績

	等級	歩留				肉質						
	歩留肉質	枝肉重量	胸最長筋面積	ばらの厚さ	皮下脂肪の厚さ	歩留基準値	BMS No	BCS No	締まり	きめ	等級	BFS No
試験区	A-3	463.0	47	7.1	2.5	72.2	4	4	4	4	4	3
	A-3	387.0	44	6.8	2.0	73.0	4	4	3	3	3	3
	A-3	387.0	48	5.6	1.9	72.9	4	4	4	3	3	3
	B-3	385.0	37	6.7	3.6	70.7	4	4	4	4	4	3
	B-2	332.0	32	5.6	2.6	70.8	2	4	2	2	2	3
平均		390.8	41.6	6.4	2.5	71.9	3.6	4.0	3.4	3.2	3.2	3.0
対照区	A-3	356.0	46	6.8	3.1	72.7	4	4	3	3	3	3
	B-3	395.0	42	7.0	3.2	71.6	3	4	3	3	3	3
	B-3	382.0	35	7.2	4.5	70.0	4	4	3	3	3	3
	A-2	348.0	45	6.0	3.0	72.2	3	4	2	2	2	3
平均		370.3	42.0	6.8	3.5	71.6	3.5	4.0	2.8	2.8	2.8	3.0